

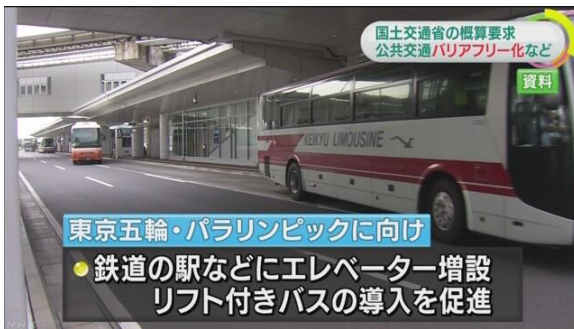


大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 2601号 2015.8.27 発行

国交省 交通機関のバリアフリー化を強化へ



NHK ニュース 2015年8月26日
国土交通省は来年度・平成28年度予算案の概算要求で今年度の当初予算に比べて15%多い6兆6700億円余りを要求する方針を固めました。東京オリンピック・パラリンピックに向けて公共交通機関のバリアフリー化などに力を入れることにしています。

国土交通省は来年度・平成28年度予算案の概算要求について、「東日本大震災からの復興の加速」とともに「国民の安全・安心の確保」に取り組むとして、今年度の当初予算に比べて15%多い6兆6791億円を要求する方針を固めました。

この中では老朽化した道路や橋などの修繕費用などに2053億円を要求するほか、火山や地震、集中豪雨などを観測・監視する体制の強化に117億円を要求する方針です。

また、2020年に行われる東京オリンピック・パラリンピックに向けて、高齢者や障害者が移動しやすいよう鉄道の駅やバスターミナルにエレベーターを増設したり、車いすの乗客が乗り降りしやすいリフト付きバスの導入を促進するなどバリアフリー化に力を入れることにしています。

また、情報通信技術を活用して自分のいる位置や目的地までの経路が分かる歩行者の移動を支援するサービスなども強化することにしています。

国土交通省は来年度・平成28年度予算案の概算要求について、「東日本大震災からの復興の加速」とともに「国民の安全・

障害者10人 オリジナル演劇コミカルに



河北新報 2015年8月26日
公演に向けてせりふや動きを確認するメンバー

脳性まひなどを抱える宮城県内の障害者10人が、仙台市宮城野区幸町の県障害者福祉センターで30日、オリジナルの演劇「幸町版シンデレラ」を披露する。本番に向けて「私たちの表現を見てほしい」と張り切っている。

舞台に立つのは、センターが月1回開いている講座「楽々（らら）劇場」に通う面々。寸劇や童話の朗読、落語を通して表現力を磨きつつ、今回の公演に向けて練習を重ねてきた。

幸町版シンデレラは、グリム童話などにさまざまなアレンジを加えた。観客を巻き込みながら舞台はコミカルに展開していく。

広く知られているシンデレラは魔法使いにカボチャの馬車を用意してもらうが、幸町版

は自分で福祉タクシーを呼んで舞踏会に出掛ける設定だ。

脚本を書いたセンター職員佐々木明子さん（49）は「魔法を待っていないで自分から動こう。そうすれば、毎日が魔法のように変わっていくというメッセージを込めた」と話す。

シンデレラを演じる千葉文さん（43）＝塩釜市＝は「身近な人に手伝ってもらいながらせりふをはっきり話せるよう練習した。みんなが見てくれるので、頑張りたい」と意気込んでいる。

演劇はセンターまつりのイベントの一つで開演は午後0時半。まつりでは、車いすソフトボールなど障害者スポーツを体験できるコーナーもある。

連絡先はセンター022（291）1585。

障害者が利用できる施設や雇用企業紹介 帯広のV E S S、寄付呼び掛け



北海道新聞 2015年8月26日
車いすの利用者が使える施設などを盛り込んだ情報誌の製作に向け、協力を呼び掛ける長岡行子さん（左前）と磯崎優子さんら

【帯広】帯広で理美容の出張サービスを行うV E S S（ベス）の長岡行子代表（44）らが、十勝管内で車いすでも使える施設や障害者を雇う企業などを載せた情報誌の発刊準備を進めている。資金はインターネットで小口の寄付を募る「クラウドファンディング」の手法で集める。

長岡さんは「体が不自由でも、気軽に外出するきっかけをつくりたい」と張り切っている。

きっかけは今年3月、帯広であった障害者向け就労支援のイベント会場。主催した長岡さんは、障害者の多くや家族らが外出に大きなためらいがあるのを知った。「トイレやスロープの有無などが気掛かりで、外出に不安がっていました」と話す。

2003年に開業したV E S Sには理美容師8人が、管内の福祉施設や病院に出向き、散髪やパーマなどを行っている。その中の1人、美容師磯崎優子さん（45）の長男（22）は脳性まひで、車いすでの生活を余儀なくされていた。長岡さんは磯崎さんから「車いす利用者が気軽に行ける施設をまとめた情報が少ない」との話をよく聞いていた。磯崎さんの後押しもあって、障害者向け情報誌を作ることにした。

2人は、障害者の来訪に対応した施設やレストラン、エステ店を調べ、障害者を雇っている企業などの情報も載せたい考え。十勝管内の店や人の情報誌「元気スロウ」を発行している印刷会社ソーゴ印刷（帯広）の協力も得て、情報誌は80～100ページで、5千冊を製作する予定。車いす利用者をモデルに起用することなども考えている。

製作費や印刷費を含め計150万円ほど掛かる経費は、ネットで幅広く集めることにした。資金が集まり次第、製作を始める。

受け付けサイトは「READYFOR?」<https://readyfor.jp/projects/kurumaisu-vess>で、3千円から応募できる。締め切りは9月25日午後11時。連絡はV E S S（電）0155・38・3558へ。（佐藤志穂）

高齢者や障害者を守る「福祉避難所」開設訓練 茨城 産経新聞 2015年8月26日

水戸市吉沢町の県立水戸特別支援学校で25日、大規模な災害が発生した際に障害者や高齢者らが避難する「福祉避難所」の開設訓練が行われた。

市内で震度6強を観測する大きな地震が発生したとの想定で実施され、学校関係者や市職員、地元住民ら約150人が参加。車椅子を乗せることができる車両を使って、乗り降りの訓練を行ったほか、避難所の設営や炊き出しの手順、車椅子でも利用できるテント型

の仮設トイレの設置方法などを確認した。

同校の奥岡智博教頭は「これまでは施設ごとに訓練をしていたが、市や警察、福祉タクシーなどと連携して大規模な訓練ができた。地域の防災体制の強化につながればうれしい」と話していた。

水戸市は、東日本大震災の際に障害者や高齢者らが安心して避難できる避難所が少なかったことを踏まえ、市内の福祉施設など39カ所を福祉避難所に指定している。

暴行事件の障害者施設、新規受け入れ停止 下関市が処分 朝日新聞 2015年8月26日

知的障害者らが利用する山口県下関市の指定障害福祉サービス事業所「大藤園」での暴行容疑事件で、同市は26日、障害者総合支援法に基づき、同園を運営する社会福祉法人に27日から1年間、同園での新規利用者の受け入れを停止する行政処分をし、発表した。

事件は昨年2月に発生。支援員の男(35)＝懲戒解雇＝が、同園で作業中だった知的障害がある利用者の男性(当時20)に暴言を浴びせながら胸ぐらをつかみ、額を3回平手打ちした暴行の疑いで今年6月、同県警に逮捕された。山口地検下関支部は同月、処分保留で釈放した。シールの束で別の利用者の頭をたたいたとして、別の支援員の男(55)＝停職1カ月＝も暴行容疑で書類送検された。

市は「支援員の行為は利用者の意思や人格を侵害するもの」としたうえで、処分内容について「利用者が大藤園に通うことを望んでいることや、他の自治体の事例も参考にして決めた」と説明した。(上山崎雅泰)

Q 法務局の人権あんしん相談とは？

読売新聞 2015年08月26日

法務局に「高齢者・障害者の人権あんしん相談」という相談の窓口があると聞きました。どのような相談を聞いてもらえるのでしょうか。

A 虐待など見かけたら相談を

金沢地方法務局

法務省と全国人権擁護委員連合会(これらを「法務省の人権擁護機関」と総称します)では、高齢者や障害者をめぐる様々な人権問題を解決するため、「高齢者・障害者の人権あんしん相談」を実施しています。

この相談窓口では、高齢者に対する介護施設等における身体的・心理的虐待、あるいは家族等による経済的虐待、車いすでの乗車やアパートへの入居の拒否など、高齢者・障害者をめぐる様々な人権問題について相談を受け付けています。

2014年に全国の法務局で受け付けた高齢者に関する相談は約4400件、障害者に関する相談は約2800件に上りました。

法務省の人権擁護機関では、9月7～13日を、全国一斉「高齢者・障害者の人権あんしん相談」強化週間として、虐待など高齢者に対する人権侵害の防止、障害者に対する差別や偏見の解消など、高齢者や障害者をめぐる人権問題の解決を図るための取り組みを強化します。

強化週間中は平日の相談窓口の開設時間を延長し、土、日にも相談窓口を開設します。平日は午前8時30分～午後7時、土、日は午前10時～午後5時に電話相談等(ただし、土、日は電話相談のみ)に応じます。

皆さんの周囲で高齢者や障害者に対するいじめ、嫌がらせ、虐待などを見たり、聞いたりしている方、虐待や嫌がらせ、差別などでお困りの高齢者や障害者の方、どんなささいなことでも構いませんので、一人で悩まずにご相談ください。人権擁護委員か法務局職員が相談をお受けします。相談は無料、難しい手続きは不要です。秘密は厳守します。

【相談電話番号】全国共通人権相談ダイヤル(0570・003・110)

県内でおかけになった場合、平日は金沢地方法務局か最寄りの支局(ただし、午後5時

15分～午後7時は金沢地方法務局につながります)、土、日は名古屋法務局につながりません。

【強化週間以外の受付時間】午前8時30分～午後5時15分(土、日、祝休日を除く)

社会変革に大きな力=ダーシー・シドニー工科大教授-パラリンピック

時事通信 2015年8月26日

インタビューに答えるシドニー工科大ビジネススクール教授のサイモン・ダーシー氏



オーストラリアのシドニー工科大ビジネススクール教授で、過去のパラリンピック大会の社会的効用などを研究しているサイモン・ダーシー氏(51)が、このほど日本財団の招きで来日して時事通信のインタビューに応え、2020年東京大会開催の意義などを語った。

ダーシー氏は、パラリンピックが大会後に残す影響として「インフラのバリアフリー化、障害者スポーツ組織の充実、障害者に対する社会的関心の高まり、健常者と障害者の交流拡大の四つがある」と分析している。

2000年シドニー・パラリンピックの研究データを挙げ、「大会後に学生と高齢者の間で、障害者への理解が進み、ボランティア活動が継続的に運営できるようになった」と説明した。

20年東京パラリンピックでこうした社会的効用のある遺産を残すためには、はっきりとした目標設定が必要で、「メダル獲得数を増やすことに焦点を当てるのか、障害者を受け入れやすい都市機能の充実を図るのか。どの観点に立つかでやり方が変わってくる」と主張した。

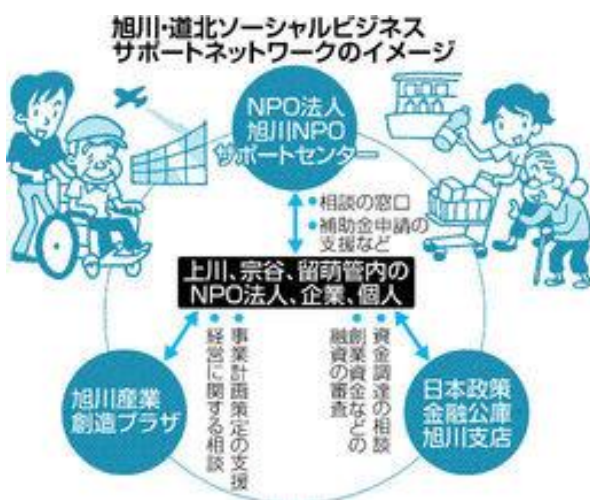
パラリンピック開催が社会を変える力は多大だと力説した上で、「選手のパフォーマンスが及ぼす影響が、大会関係者、ボランティア、観客、開催国の国民、国際社会へとどんどん広がっていく」と述べた。

“課題解決ビジネス” 創業を 旭川でNPOなど3者が支援組織

北海道新聞 2015年8月26日

【旭川】道北各地で福祉や地域活性化などまちの課題に取り組むソーシャルビジネス(社会的事業)の創業を応援しようと、NPO法人旭川NPOサポートセンターと日本政策金融公庫旭川支店、旭川産業創造プラザは25日、「旭川・道北ソーシャルビジネスサポートネットワーク」を立ち上げた。同センターを窓口にして、3者が強みを生かし、連携して支援する。

日本政策金融公庫旭川支店は中小企業を支援する旭川産業創造プラザと連携し、富良野商工会議所で創業支援を行っているが、同公庫の道内支店がソーシャルビジネスの支援に特化し、NPO支援組織を窓口として連携するのは初という。



窓口として連携するのは初という。

支援対象は上川、宗谷、留萌の各管内でソーシャルビジネスの創業を検討しているNPOや企業、個人。高齢者の買い物支援や障害者の旅行介助、過疎地の福祉タクシーなど「地

域のさまざまな課題を解決する取り組み」を想定している。

NPOサポートセンターが窓口となり、創業の相談や補助金申請の支援を担当。産業創造プラザは事業計画づくりや経営などについて助言。同公庫は資金調達の相談に乗り、融資の審査を行う。事業の規模や計画内容にもよるが、3者が連携することで、事業計画の策定から融資までの期間を、通常の約1カ月から約2週間に短縮できるという。

また、ソーシャルビジネス事業者向けのセミナーなども開催。経営基盤の強化や販路開拓、新事業の検討などのニーズに対し、連携して支援や情報提供を行う。

日本政策金融公庫旭川支店国民生活事業の中谷渉融資第二課長は「道北では人口減や少子高齢化が進んでいる。創業が増えれば雇用も増え、地域経済の好転につながる。道北の町づくりを支援したい」と話している。問い合わせは旭川NPOサポートセンター（電）0166・74・4180へ。（川浪伸介）

壬生町社協が町営プールの売店を経営 年500万円の自主財源に

福祉新聞 2015年08月26日福祉新聞編集部

町営プールで社協が経営する売店「ウェルフェ」

栃木県の壬生（みぶ）町社会福祉協議会は、町営プールの売店「ウェルフェ」の経営で、年間500～600万円の自主財源を確保している。天気が良ければ収益もアップすると、猛暑を歓迎している。

売店経営のきっかけは、1986年の町営プール開所に伴い、行政から「収益事業として社協でやらないか」と打診されたこと。当時、社協は5000万円を目標に福祉基金を造成しており、これに役立つと引き受けた。

福祉基金を造成しており、これに役立つと引き受けた。

町営プールは、200名用流水プールなど6種のプールと5種のスライダーがあり、年間来場者は5～7万人に及ぶ。今年は7月18日から8月31日までオープンしている。



壬生町営プール

売店で扱うのは、焼きそばや空揚げ、アメリカンドックなどの軽食、アイスやスナック菓子と浮き輪などの水泳用品。ジュースの自動販売機も10台設置しており、昨年からは町内の知的障害者施設「せせらぎ学園」が製造する菓子パンの販売も始めた。

当初は、町内の仕出し業者にパック詰め商品を納入してもらっていたが、5年前から売

店内で調理する方法に変更した。仕出し業者の調理担当者がその日の入場者数に応じ量を調整できるので、客を待たせることなく、残量も減らすことができた。

売上額は2013年度が1913万円、14年度が1640万円。14年度は最も客が来るお盆の天候不順が響いて売り上げが落ちた。

仕入れ費やアルバイト代などを除いた収益は13年度が553万円、14年度が468万円。4人の正規職員が交代で金銭・在庫管理などをしており、勤務的には大変だが、貴重な自主財源確保のためと一丸で取り組んでいる。

また、自主財源を使い、就労に一步踏み出せない生活困窮者に社協運営の障害者施設で就労体験してもらうモデル事業を行うなどしている。

「自主財源があるので、小回りの効くニーズ即応の事業ができる。収益事業は職員に過大な負担を掛けないことがポイント。自販機などの設置が良い」と大橋誠・事務局次長は

話している。

那須烏山の旧温泉施設「やまびこの湯」、6年ぶりに利用事業者

下野新聞 2015年8月26日

【那須烏山】2009年から閉鎖している市の旧温泉施設「やまびこの湯 からすやま」（横枕）の再活用について市は、月次の社会福祉法人「みつわ会」に障害者の入所施設として貸与することを内定し、25日、市議会全員協議会で明らかにした。

同会は近く事業計画書を市に提出し、正式決定後、16年秋に改修を始め、17年度からの利用開始を目指す。

同温泉施設再活用について市は、市公有財産管理運用委員会で11年から検討。ことし5月下旬から施設運営事業者を公募し、7月30日、同会に内定した。同会は指定障害福祉サービス事業所で、古紙の再生や電気製品廃材の分別、菓子の製造・販売など障害者の就労支援や自立訓練事業を行っている。

同温泉施設は鉄骨・鉄筋造り平屋で延べ床面積約630平方メートル。市は施設や敷地を無償貸与する。

同温泉施設は旧烏山町時代の1997年に第三セクターでオープン。その後、町営となったが、経営不振などで休館。2006年からは民間業者が指定管理者として運営していたが、09年から閉鎖となっている。

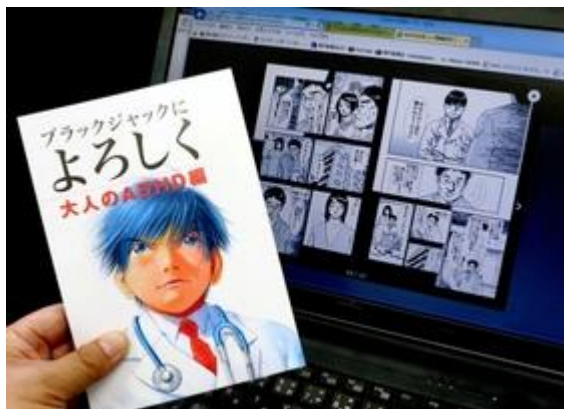


大人のADHD 人気漫画「ブラックジャックによろしく」で啓発

神戸新聞 2015年8月26日

「ブラックジャックによろしく 大人のADHD編」の冊子とウェブサイト

神戸市中央区の製薬会社日本イーライリリーが、発達障害の一種、注意欠陥多動性障害（ADHD）を理解するための啓発漫画「ブラックジャックによろしく 大人のADHD編」を作った。大人の患者に焦点を当て、人気漫画の登場人物がADHDの特徴を解説。関係者は「適切な治療開始にもつながれば」とする。



ADHDは不注意、多動性、衝動性が特徴で、大人の場合、同じ失敗を繰り返すな

どして、職場や家庭で孤立することが多い。「周囲に迷惑を掛けている」と自分を責め、自尊心が低下することで、うつ病や不安障害などの二次障害を起こすこともあるという。

漫画では会社員、専業主婦、大学生、パート主婦の4人の例を通じ、それぞれの不安や困難を紹介する。約束を忘れる、時間が守れない、複数の仕事を並行して進められないなど、失敗を重ね困り果てて精神科を受診。精神科医が患者の話を詳しく聞き、問題を明らかにしていくという筋立てだ。

医療を題材にした人気漫画「ブラックジャックによろしく」の著者佐藤秀（しゅう）峰（ほう）さんの許諾を得て、漫画の素材を二次利用、制作した。

発達障害の専門家である市川宏伸・東京都立小児総合医療センター顧問や、当事者とし

てNPO法人「発達障害をもつ大人の会」（大阪市）代表の広野ゆいさん＝芦屋市＝らが監修。広野さんは「大人のADHD当事者には周囲の支援が不可欠だ。この漫画を読んだ人が理解を深め、ADHDの人の特性が『違い』として受け入れられる社会の実現を望みたい」と話す。

冊子にまとめ、専門の医療機関や支援窓口で配布中。ウェブサイト「大人のためのADHD. co. jp」から自由に閲覧、印刷できる。（片岡達美）

地域交流施設 利用者と住民でリフォーム 三木

神戸新聞 2015年8月26日

リフォームが進む「みんなのひろば おおきなき」と「おおきなきDIY部」の廣井朋映さん＝三木市緑が丘町中2



リフォームに取り組む「おおきなきDIY部」のメンバーら＝4月（同部提供）＝三木市緑が丘町中2

兵庫県三木市緑が丘町中2の地域交流施設「みんなのひろば おおきなき」で、施設利用者と地域住民らが老朽化した室内のリフォームに取り組んでいる。心に病のある人も参加し、内装の作業は大詰めを迎えた。30日午前10時～午後4時、お披露目会を開く。今後、壁と床の板を貼り、家具を手作りするなどし、12月の完成を目指す。作業の参加者も募っている。（大島光貴）



同施設は2階建ての理容室と民家を活用し、2008年にオープンした。子育て広場や、心に病のある人の居場所づくりなどに取り組む計12団体が利用している。建物は築約40年で、雨漏りや床の傷みが激しかった。

昨年、所有者の意向で取り壊すことになったが、同町子ども会育成会の支援を受け存続が決まった。ことし1月から、施設で活動する統合失調症や発達障害の人と住民ら約20人が「おおきなきDIY（ディーアイワイ）部」を結成し、大工の橋英志さん（明石市）の指導や企業の助成を得ながら一部のリフォームを始めた。

部屋を仕切っていた壁を壊し、断熱材をはめ込み、石こうボードを貼り付けるなどした。7月には、子どもも含め約60人が壁を漆喰（しっくい）で塗り、各自の手形を記念として壁に残した。

DIY部の廣井朋映（ともえ）さん（39）＝同町中＝は「病気に関係なく、作業を通じ地域のつながりが深まった。自分たちの居場所をつくることで『おおきなき』への愛着が深まったと思う」と話す。

次の活動は27日午前10時～午後4時。参加費500円（飲み物、軽食付き）。要申し込み。軍手やマスクは各自持参。お披露目会は無料。おおきなきTEL070・6667・7193

桜染め用の葉 採取...製糸場

読売新聞 2015年08月26日

東京電力福島第一原発事故の影響で福島県富岡町から高崎市に避難している障害者支援施設「光洋愛成園」の職員らが25日、4月から世界文化遺産・富岡製糸場で販売している桜染めのハンカチの染色に使うため、製糸場で桜の葉を集めた。

富岡製糸場内で桜の葉をつみ取る光洋愛成園の職員ら

同園は2005年度、社会参加活動の一環として利用者らが作った桜染めのハンカチを発売。12年9月に避難先で再開し、今年4月からは同じ「富岡」のつながりで製糸場で販売中だ。25日は職員5人が45リットルの袋3枚分の桜の葉を収集した。

自然の色で染まったハンカチ（税込み2500円）は好評で、初回の30枚は完売し、2回目の納品を済ませた。

同園生活支援員の松永ゆみさん（53）は「利用者も売り上げが上がって喜んでいる」と話した。



写真展やトークショー パラスポーツウイーク始まる 大阪日日新聞 2015年8月26日

5年後の2020年に東京パラリンピックが開幕する25日、大阪市天王寺区のあべのハルカス近鉄本店で「パラスポーツウイーク」が始まった。障害者スポーツの振興を目的に、30日まで写真展やトークショーなどが行われる。

障害者や高齢者のスポーツ活動の支援を行うNPO法人「アダプトスポーツ・サポートセンター（ASSC）」（大阪市）が、8月25日を「パラスポーツの日」として申請し、昨年認定された。2020年の東京パラリンピックへの意欲を語る上地さん＝25日午前、大阪市天王寺区の阿倍野ハルカス近鉄本店

オープニングセレモニーでは、同法人の高橋明理事長が「パラスポーツには、人間の可能性、生きる力、勇気、元気を感ずる。その魅力を広めていきたい」と語った。

ことしのウィンブルドンテニスの車いすの部、女子ダブルスで優勝した上地結衣さん（21）も出席し、「2020年の東京では、自分たちが引っ張っていきたい」と意欲を語った。

29日は、同店でパラ陸上女子100メートル日本記録保持者の高桑早生さんのトークショーとゴスペルグループ「ニューマンノート」のコンサート、30日には天王寺スポーツセンター（天王寺区）で風船バレーボール大会やパラスポーツの体験会が行われる。



児童相談所で弁護士の利用促進 厚労省、対策に140億円 共同通信 2015年8月26日

厚生労働省は26日までに、児童虐待への対応強化策として、全国の児童相談所による弁護士の利用促進や、非常勤職員の採用枠拡大による児相の体制強化に乗り出す方針を固めた。2016年度予算の概算要求に関連費用として約140億円を盛り込んだ。

各児相が弁護士を利用する際の補助費を拡大し、これまでの週1回から今後は週3回程度利用できるよう支援する方針。弁護士から適切な助言を受けやすくすることで、児相側が、保護者の同意がなくても法律上可能な子供の一時保護や、親権停止手続きをスムーズに進められるようにする狙いもあるという。

児相や市町村への虐待通告が増え続けている状況を受け、既に退職した児相職員や元警察官らを非常勤で採用するなどして、人員を増やす方針も決定した。〔共同

